

ながわ

那珂川町郷土史研究会

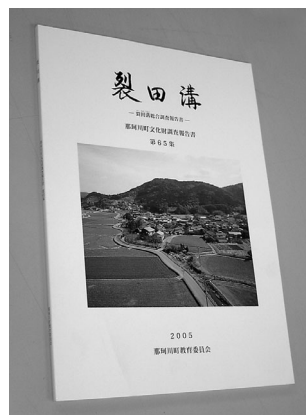
探訪 76

裂田溝3

さくたのうなで

報告書は、これまでの考古学的視点からの報告だけではなく、土木工学による築造工法、地質学による地質の成り立ち、文献史学による資料検討など多岐にわたる研究がなされています。この報告書であらためて文化財として裂田溝が重要であることが確認できました。

また裂田溝は文化財のみでなく、環境や観光など様々な活用方法があると考えています。今後、裂田溝が町の史跡指定となり、将来は安徳台や安徳大塚古墳などの流域の史跡も含め、国や県の指定になることを望みます。また、『日本書紀』に書かれている裂田溝が、現在、国や県の補助を受けて大改修されて



いることは、那珂川町だけではなく県にとっても画期的な出来事だと思います。この工事については、県もこの遺跡が歴史的に貴重なものであることを十分認識されており、周到な準備のもと着手されていると伺っています。

ここで、改修後の見所を少し紹介しておきます。『日本書紀』の神功記に、「裂田溝を掘ったところ大磐に行きあたつて難渋した」と書かれている場所が、安徳区にある裂田神社の裏手だといわれています。教育委員会により、平成15年度に神社対岸の亀島、平成17年度に改修工事に伴い神社の裏手一帯が発掘調査されました。その結果、裂田神社付近は、花崗岩からなる岩盤であることが分かりました。また、『日本書紀』に書かれている場所がここであることも分かり、当時、この一帯が工事上の難所の一つであり、初期の水路の形が残っている可能性がある最も重要な場所であることを裏付けることができました。

機械がない時代、どうやって岩を砕いたのかは知る由もありませんが、想像を絶する大工事であったと思います。

私たちは、この工事が完成したときには、町民の皆さんはもちろん、福岡市や周辺の人々が大勢訪れ、見学されるのは間違いないと思っています。また、裂田溝沿いには前にも紹介したように安徳台(御所原)、安徳大塚古墳、城山(岩門城)、伏見神社、裂田神社、現人神社などがあり、古代から中世にわたって史実と伝承に彩られた場所が多く、知られざる聖地と言ってもいい地域です。

自然と歴史がこのように調和した姿で現存する場所は、県内でも少ないでしょう。それにまして、裂田溝を長い年月守り続けてこられた農業関係者の方々のご苦勞を思うとき、深い敬意と感謝の念を抱かざるをえません。

来月号からは場所ごとの紹介や調査の時のエピソードを連載します。どうぞお楽しみに。



裂田神社と亀島



裂田神社裏の大磐の発掘調査(平成17年度)

